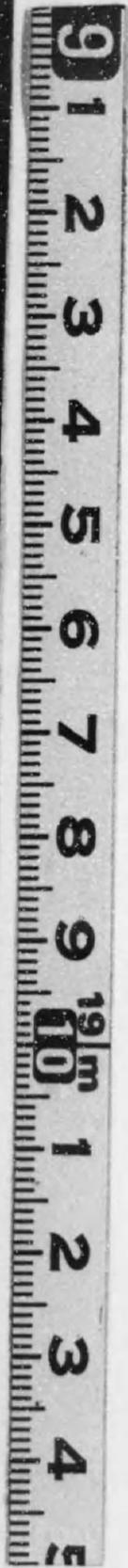
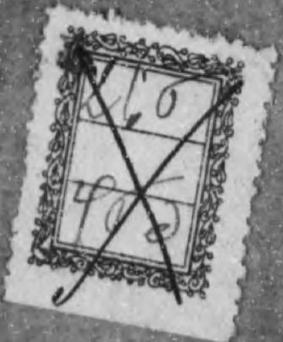


特113

889

夜鷹



始



解説

ワキ一人、次第にて出で舞臺に入り、大小の方へ向き諺ふ。
ワキ次第表 『世を捨人の旅の空』 此處は納めて諺ふべし。名宣、道行すべき同断。着き濟みて狂言と懸合あり。

一聲にて、シテ扇さし、權棒持ち出で、舞臺に入り、

シテ一表 『悲しきかなや身は籠鳥』 と諺ふ。

ワニ表 『ふしぎやな夜も更け方の浦波に』 ワキはシテへかゝり諺ふ。此懸合宜しくありて、

初四表 『さ、て来にけりうつほ舟』 初回は乗り合ひをつけ諺ふ。

初四表 『法の力を頼むなり』 此處にてシテ、中にて棒を捨て合掌、下に居る。

ワニ表 『何と見申せども更に人間とは見え候』 とシテへかゝり諺ふべし。以下懸合宜しくありて、

地五表 『扱も近衛の院の御在位の時』 と地はかゝりてつける。

クセ クセにはシテに形種々あれば見計ひ諺ふべし。

八表 『實にかくれなき世語りの』 此處は氣を變へ諺ふ。

九表 『棹とりなほしうつほぶね』 よりシテ立ち、形あれば見計ひ諺ふ。申入。

間語、ワキとの懸合濟み、待談、夫より。出羽にて後シテ打杖さし、扇持さ出で。舞臺に入り、ワ

キへ向く時、

ワ九表 『一佛成道觀見法界』 と、ワキはかゝりて諺ふ。

地同表 『五十二頭も我同性の』 此處も同じくかゝりてつける。

ワ十表 『ふしぎやな目前に来る者を見れば』 此處は改めて諺ふ。以下キリ、シテに形種々あれば、

見計ひ諺ふべきなり。

終

夢

夢を捨人の寝た家へゆくやうに

りたてしむる母の^母花に徒園に見

の僧より我は行はぬ能野へ

とまじり又よりたふちかへり

思ふやうに^思歸子にの路

終

物おほめあり
まらう打つ
しやう無の樓大さる落の心
新念てよるさかむお
年ふもさくさく
わらわらやあささる
つるを猪早ちはつら

つるを猪早ちはつら
わらわらやあささる
しやう無の樓大さる落の心
新念てよるさかむお
年ふもさくさく
まらう打つ
物おほめあり

あはれとてはかたし今もあはれとてはかたし
むらさきとてはかたし今もあはれとてはかたし
はるかにあはれとてはかたし今もあはれとてはかたし
あはれとてはかたし今もあはれとてはかたし
あはれとてはかたし今もあはれとてはかたし
あはれとてはかたし今もあはれとてはかたし
あはれとてはかたし今もあはれとてはかたし
あはれとてはかたし今もあはれとてはかたし
あはれとてはかたし今もあはれとてはかたし
あはれとてはかたし今もあはれとてはかたし

あはれとてはかたし今もあはれとてはかたし
あはれとてはかたし今もあはれとてはかたし
あはれとてはかたし今もあはれとてはかたし
あはれとてはかたし今もあはれとてはかたし
あはれとてはかたし今もあはれとてはかたし
あはれとてはかたし今もあはれとてはかたし
あはれとてはかたし今もあはれとてはかたし
あはれとてはかたし今もあはれとてはかたし
あはれとてはかたし今もあはれとてはかたし
あはれとてはかたし今もあはれとてはかたし



著作權所有

大正五年四月四日印刷
大正五年四月九日發行

東京市深川區西平野町一番地

著作者 寶生九

東京市日本橋區通四丁目八番地

發行者 江島伊兵衛

東京市日本橋區通四丁目八番地

發行所 椀屋謠曲書肆

東京市神田區皆川町二番地

印刷者 田村茂太郎



終

